関係性攻撃と心理社会的適応との関連(10)

—多次元性関係性攻撃尺度(職場社会人用)の併存的妥当性の検討—

○藤原 健志¹・大川 一郎²・湯川 進太郎²・佐藤 純³・設楽 紗英子⁴・江口 めぐみ⁵・濱口 佳和²
(¹筑波大学大学院人間総合科学研究科・²筑波大学人間系・³茨城県立医療大学・⁴関東短期大学・⁵立正大学)

キーワード: 関係性攻撃・就労者用尺度・併存的妥当性

Relationship between relational aggression and psycho-social adjustment (10)

Takeshi FUJIWARA, Ichiro OOKAWA, Shintaro YUKAWA, Jun SATO, Saeko SHITARA,
Megumi EGUCHI and Yoshikazu HAMAGUCHI

(¹Graduate School of Comprehensive Human Sciences, University of Tsukuba, ²Faculty of Human Sciences, University of Tsukuba,
³Ibaraki Prefectural University of Health Sciences, ⁴Kanto Junior College, ⁵RisshoUniversity)

Key words: relational aggression / scales for workers / concurrent validity

【問題と目的】

本研究の目的は、一連発表(9)で作成された、多次元性関係性攻撃尺度(職場成人用: MRAS-W)の併存的妥当性を検討することである。具体的には、既存の攻撃性尺度のうち、日本版 Buss-Perry 攻撃性質問紙(BAQ: 安藤・曾我・山崎・島井・嶋田・宇津木・大芦・坂井, 1999)、成人用能動的・反応的攻撃性尺度(濱口, 2008)、敵意的攻撃インベントリ(HAI: 秦, 1990)の3尺度との関連を検討する。また怒り喚起・持続尺度(渡辺・小玉, 2001)、多次元共感性尺度(鈴木・木野, 2008)と社会的スキル(KiSS-18: 菊池, 1988)との関連についても検討し、尺度の併存的妥当性を確認する。

【方法】

調査対象者 項目数を考慮し、以下の2サンプルを対象とした。(A)東北地方を除く全国の20~60代の就労者214名(男性105名、女性109名)。(B)全国の10代~60代の就労者190名(男女各95名)。

調査方法 民間調査会社に委託してWeb調査として実施。

質問紙の構成

サンプルA (n=214): ①MRAS-W 原版: 一連発表(9)で作成したMRAS-Wの原版63項目(5件法)を用いた。②日本語版 Buss-Perry 攻撃性質問紙(BAQ): 安藤ら(1999)のうち、「短気」(5項目)と「身体的攻撃」(6項目)の2下位尺度(5件法)を用いた。③成人用能動的・反応的攻撃性尺度: 濱口(2008)のうち、「他者支配」(6項目)と「欲求固執」(6項目)の2下位尺度(5件法)を用いた。

サンプルB (n=190): ①MRAS-W 原版: 一連発表(9)で作成したMRAS-Wの原版63項目(5件法)を用いた。②怒り持続尺度: 渡辺・小玉(2001)のうち、怒り持続尺度を用いた(7項目5件法)。③敵意的攻撃インベントリ(HAI): 秦(1990)のうち、「間接的攻撃」(10項目)と「言語的攻撃」(8項目)の2下位尺度(5件法)を用いた。④多次元共感性尺度: 鈴木・木野(2008)のうち、「他者指向的反応」(5項目)と「視点取得」(5項目)

の2つの下位尺度(5件法)を用いた。⑤KiSS-18: 菊池(1988)を用いた(18項目5件法)。

調査時期 サンプルAは2011年3月、Bは同年10月に実施。

【結果と考察】

a. MRAS-W の因子分析

MRAS-W 原版 63 項目について、60%以上の調査対象者が「全くあてはまらない」と回答した19項目を分析から除外した。残りの44項目について、主因子法・プロマックス回転による因子分析を行った。どの項目に対しても高い因子負荷量を示さない項目や、複数の因子に対して高い因子負荷量を示した項目を除外して因子分析を繰り返した結果、「孤立化」(11項目)、「関係操作」(10項目)、「陰口／噂の流布」(9項目)、「無視」(3項目)の4因子が抽出された。このため、以下の分析では上記4下位尺度の併存的妥当性について検討した。

b. MRAS-W の信頼性の検討

MRAS-W の信頼性を検討するため、Cronbach の α 係数を算出した。その結果、「孤立化」($\alpha=.89$)、「関係操作」($\alpha=.88$)、「陰口／噂の流布」($\alpha=.85$)、「無視」($\alpha=.80$)となり、各下位尺度ともおおむね十分な信頼性を有することが確かめられた。

c. MRAS-W の妥当性の検討

MRAS-W の妥当性を検討するため、MRAS-W 下位尺度の合計得点とBAQ、能動的・反応的攻撃性、怒り持続、HAI、多次元共感性、KiSS-18各尺度の相関係数を算出した(Table)。その結果、MRAS-Wの全ての下位尺度とBAQにおいて.30以上の正の有意な相関係数が得られた。また、MRAS-W下位尺度と能動的・反応的攻撃性、怒り持続ならびにHAIとの間にも、おおむね全ての下位尺度間で有意な正の関連が認められた。一方、多次元共感性やKiSS-18とは弱いながらも有意な負の関連を有することが明らかとなった。

本研究は科学研究費補助金基盤研究(B)「関係性攻撃と心理社会的適応との関連についての生涯発達心理学的研究(22330187)代表; 濱口佳和」の助成を得て行われた。

Table 多次元性関係性攻撃尺度(職場成人用)と他尺度との相関係数

		サンプルA(n=214)				サンプルB(n=190)					
		BAQ		能動的・反応的攻撃性		怒り 持続	HAI		多次元共感性		KiSS-18
		短気	身体的 攻撃	他者 支配	欲求 固執		間接的 攻撃	言語的 攻撃	他者 指向的 反応	視点 取得	
MRAS-W	孤立化	.35 **	.30 **	.19 **	.23 **	.26 **	.32 **	.22 **	-.23 **	-.22 **	-.22 **
	関係操作	.36 **	.31 **	.25 **	.35 **	.21 **	.43 **	.28 **	-.16 *	-.09	-.05
	陰口／噂の流布	.41 **	.35 **	.20 **	.31 **	.33 **	.27 **	.23 **	-.16 *	-.24 **	-.15 *
	無視	.34 **	.32 **	.14 *	.09	.19 *	.41 **	.00	.02	-.07	-.10

** $p<.01$, * $p<.05$